

「大学図書館のおかれた状況と新たな挑戦」

神戸大学附属図書館 故選義浩

I. はじめに

今なぜ大学図書館の利用活用促進が必要か

現在、図書や雑誌などの学術情報がインターネットで容易に入手できるようになったことから、大学図書館の存在意義が薄れたといわれている。また、「本は自分で探すもの」であって、図書館員は「本の貸出手続きをする人」であり、図書館は「本を借りるところ」でしかないという考えが多数意見を占めている。

大学図書館の評価が低くなっている今、図書館の専門的機能を改善し充実することにより、図書館の本来の目的である利用活用を促進することが必要である。

II. 大学図書館がおかれている状況

1. 財政面からみた現状

大学図書館に対する予算配分の状況について。

文部科学省が毎年行っている大学図書館実態調査より。

大学図書館経費 平成11年度 => 平成15年度 17.6%減少 (1大学平均)

2. 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会 「学術情報基盤の今後の在り方について」(報告) 平成18年3月

「II. 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」

大学図書館を取り巻く課題

- ・ 財政基盤が不安定
- ・ 電子化への対応の遅れ
- ・ 図書館サービスの問題点

(ア) 主題知識、専門知識、国際感覚を有する専任の図書館職員が不十分 (従来の図書館員像に加えていわゆるデジタルライブラリアン)

(イ) 情報リテラシー教育の位置づけが不明確

(ウ) 利用者ニーズの把握が不十分

今後の対応策

- ・ 電子化への積極的な対応

(ウ) 電子化の新たな波への対応

海外の情報検索サービス業者等との連携・・・注視・・・適切な対応

(エ) 機関リポジトリの推進

学内で電子的に生産される研究成果・・・蓄積保存

メタデータを付すこと・・・インターネットに広く供する

- ・ 大学図書館のサービス機能の強化

- (ア)高度の専門性・国際性を持った大学図書館職員の確保・育成方策
- (イ)大学図書館による教育支援サービス機能の強化と
情報リテラシー教育の推進
個別の要望に応じる=>積極的に教育支援サービス
教員側に必要性を指摘 積極的にプログラムを提案
- (ウ)利用者ニーズへの対応

3. 電子化

業務の電算化 目録の電算化 学術情報センターシステム 電子図書館システム
電子化資料 電子ジャーナル データベース
オープンアクセス 機関リポジトリ
Google Yahoo インターネット

4. 機関リポジトリ

- ・ BOAI (Budapest Open Access Initiative)
セルフ・アーカイビングとオープン・アクセス・ジャーナルの新規発行とこれら
への変換
- ・ 機関リポジトリの仕組み
データ・プロバイダとサービス・プロバイダ
OAI-PMH (Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting)
- ・ Open Access
Wellcome Trust が資金援助した研究のペーパーは Pubmed Central や UK
Pubmed Central に登録しなければならないとした。2005.10-
http://www.wellcome.ac.uk/doc_wtx025191.html

5. 学生の図書館利用状況

学生の図書館利用頻度(神戸大学附属図書館 H17 年度利用者アンケートなどより)
2～3割の学生は図書館を使っていない。
インターネットの利用が原因とはいえない。

Ⅲ. 新たな挑戦

1. 展示会開催における小さな改善

意義：一般市民の大学図書館利用促進
資料展示による教育

- ・ 開催場所の改善
- ・ 宣伝広報の改善
- ・ 地域との連携
- ・ 資金調達

2. 懸賞論文(書評賞)

意義：自由な研究 自ら研究する意欲

- ・懸賞論文
金沢大学 暁烏文庫
関西学院大学 J.C.C.Newton 賞（研究会にて）
- ・書評賞
流通科学大学（研究会にて）
松山大学

3. イベント開催

- ・沖縄工業高等専門学校
英語教育の一環として
英語表記による書架案内・開館時間案内
ハロウィン イン ライブラリー
図書館に親しみを覚え利用促進に

4. 情報リテラシー教育

大学審議会「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」（答申）平成12年11月

（情報リテラシーの向上） 「大学教育においては、学生に、グローバルな広がり、主体的に情報を収集し、分析し、判断し、創作し、発信する能力を養うことが不可欠である。その際、情報モラルや、情報機器及び情報通信ネットワークの機能にかかわる基本的知識や能力の習得を重視することが必要である。」

- ・神戸大学「情報基礎」における情報リテラシー教育
14:30分
コンピュータリテラシー、図書館の利用方法とレポート作成、WWW による情報発信のアカデミックマナー
- ・情報リテラシーの定義
（ALA の定義）
情報リテラシーとは、「情報が必要なときに、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用する」ことができるように、個々人が身に付けるべき一連の能力である。
- ・ALA/ACRL 高等教育における情報リテラシー能力基準
Information Literacy Competency Standards for Higher Education
- ・Cornell 大学 Olin&Uris 図書館
図書館チュートリアルと諸技術ガイド
情報源の批判的な分析
1. 初期評価

○著者○出版年○版○出版者○雑誌名

2. 内容評価

○対象としている読者○客観的推論○到達範囲○記述スタイル○信頼できる批評

研究推進のための7つのステップ

- STEP1 課題の確立と深化
- STEP2 背景となっている情報を調査
- STEP3 図書資料などを知るための目録検索
- STEP4 索引を使った雑誌論文の調査
- STEP5 インターネット資源の調査
- STEP6 調査結果の評価
- STEP7 標準形式による引用文献の記述

・引用文献の記述方法

MLA Style

MLA (Modern Language Association) アメリカ近代語学会の執筆要項
Joseph Gibaldi, *MLA style manual and guide to scholarly publishing*,
2nd ed. New York : MLA, 1999. (大学生、研究者、教授向け)

Joseph Gibaldi, *MLA handbook for writers of research papers*, 5th ed.
New York : MLA, 1999. (1st ed. 1977) (高校生、学部生向け)

APA (American Psychological Association) 米国心理学会 社会科学者向け
その他 Chicago Style, Bluebook, CBE Style など

日本では中村健一『論文執筆ルールブック』など
学術雑誌の論文執筆要項

IV. おわりに

小さなことでも、できることから、すべての図書館活動で“新たな挑戦”を。

参考：

IFLA のメーリングリスト紹介 HP <http://infoserv.inist.fr/wwsympa.fcgi>